

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
**社会福祉学・社会学・教育学・統計学・体育学グループ**  
**分野連携アクティブ・ラーニング対話集会**  
**開催要項**

## 1. 開催趣旨

平成28年度に本協会が調査した「私立大学教員による授業改善調査」によれば、暗記伝達型教育から、参加型学修に転換しようとする教員の姿勢がうかがえ、アクティブ・ラーニングは「主体性の向上」、「考察型学修への転換」、「問題発見・解決体験による実践力の向上」、「主体的に考え行動するコンピテンシーの獲得」に大きな効果があることが判明しています。しかし、取り組みは緒についたばかりで、大半は個別授業における講義との組み合わせによる知識の定着・確認が中心となっています。

そこで、本年度のアクティブ・ラーニング対話集会では、質的向上を目指して教育・学修方法の工夫・改善にICTをどのように活用し、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性の向上を図るかを中心に考察を行い、理解の共有を進めていくことにしました。また、学修到達度の質保証を厳格化するICT活用の仕組みが期待されていることもあり、大学間連携による分野別外部評価モデルの検討と、学位プログラム転換の促進にむけて、教員相互が授業情報を共有し工夫・改善を議論する情報環境と、その活用について認識の共有を目指すことにしました。

## 2. 対話集会のねらい

アクティブ・ラーニングに関する授業情報を共有し、工夫・改善が議論できるよう、本年度は以下の視点で対話集会を展開します。

- ① 質的向上を目指すため、ICTを活用して学力の3要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性）を高める教育改善モデルや実践事例を紹介し、事例を踏まえてアクティブ・ラーニングの教育・学修方法を探求します。
- ② 学位プログラムへの転換を促進・理解するため、授業の可視化、学修成果の可視化など授業情報を共有化する中で、授業科目の相互改善に結びつける仕組みとしてのeシラバス、eポートフォリオなどの活用について理解を深めます。
- ③ ディプロマポリシーの達成度を測定する仕組みとして、本協会が提案しているICTを活用した外部評価の必要性とそのための大学連携コンソーシアムについて理解の共有を図り、教育の質保証を確保するアセスメントモデルの実現に向けた議論を展開します。

## 3. プログラム

(1) 開催趣旨の説明

(2) アクティブ・ラーニングの話題提供

### ① 社会福祉学分野

#### 「福祉計画策定のために地域連携を目指したアクティブ・ラーニング」

他者の立場を理解するための思考力、判断力、自分の考えを正確に伝える表現力および他者にかかわるために必要な主体性、多様性、協働性を身につける取り組みを目指す。具体的には、2年生を対象にモバイル等を活用し、学生、地域、行政からの情報共有を通じて伊勢市の福祉計画策定に協力しながら地域連携を目指した取り組みと展望を紹介。

皇學館大学現代日本社会学部教授

山路 克文 氏

### ② 社会学分野

#### 「アナログ的・デジタル的手法を組み合わせたALによる学力の三要素の養成—地域連携・産学連携を事例として—」

地域連携・産学連携をテーマに、プロジェクト学修を中心とした社会調査実習およびゼミによる「思考力」・「判断力」・「表現力」及び「主体性・協働性」の向上・発展への取り組みを紹介。

大妻女子大学人間関係学部教授

干川 剛史 氏

③ 教育学分野

「教育学において ICT を活用して主体的な学びに転換するための授業改善の提案」

教室外学修でネットを通じて他大学の学生や社会人とフォーラムを形成し、課題探求や調べ学修、討論など学びの協働化を実践し、学びの意義を論理的に説明できる力を獲得させる取り組みや構想を提案。

筑紫女学園大学文学部教授

竹熊 真波 氏

④ 統計学分野

「データを基に問題発見・問題解決に取り組むデータサイエンス教育の提案」

ICT を活用してデータを客観的・類別的・可視的に表現し、仮説・推論を通じて問題解決に取り組むことで、自己主張できる合理的な判断力を培う取り組みを提案。

多摩大学経営情報学部教授

今泉 忠 氏

⑤ 体育学分野

「スポーツの社会的機能を活用して社会の発展に寄与する授業の提案」

IOC のオリンピック教材「尊重と他者理解を学ぶ」を踏まえて、ICT を活用して大学間でスポーツを通じた社会の問題解決や国際協調への貢献について考え、表現する取り組みを提案。

中京大学スポーツ科学部教授

來田 享子 氏

同志社大学スポーツ健康科学部教授

田附 俊一 氏

(3) 意見交流

教育・学修方法の工夫・改善に ICT をどのように活用して「学力の 3 要素」の向上を図るかを中心に実践事例や授業改善の提案について、参加者全員による意見交流を通じて、認識の共有化と解決に向けての気づきを探求します。また、学修到達度の質保証を厳格化する ICT 活用の仕組みとしての大学間連携による分野別外部評価モデルの検討と、学位プログラムへの転換促進にむけて、教員相互が授業情報を共有し、工夫・改善を促進するための情報環境とその活用を中心に以下のテーマで意見交流を行います。

① 「学力の 3 要素」を高める ICT を活用した教育・学修方法の工夫・改善

② 授業科目の相互改善を促進するための仕組みと ICT 活用

③ ICT による外部評価モデルの必要性和仕組み

※ 事務局から学修成果の質保証にむけた到達度の外部評価モデルについて提案します。

4. **参加対象者**：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. **開催日時**：平成 29 年 12 月 16 日 (土) 14:00~17:30

6. **会場**：早稲田大学 (早稲田キャンパス 15 号館 1 階 02 教室) 東京都新宿区 西早稲田 1 丁目 6-1

7. **定員**：100 名 (先着順で受け付けます)

8. **参加費**：無料

9. **参加にあたって**

事前に、本協会がまとめた「大学教育への提言—未知の時代を切り拓く教育と ICT 活用」の 1 章 3.(2)③ 学修成果の質保証に向けた到達度の外部評価モデル)、2 章 (ICT を活用した教育改善モデルの考察：社会福祉学分野、社会学分野、教育学分野、統計学分野、体育学分野)、「私立大学教員の授業改善白書(平成 28 年度調査結果)」をご覧ください。

<http://www.juce.jp/LINK/teigen.html>

<http://www.juce.jp/LINK/report/hakusho2016/hakusho2016.pdf>

10. **資料について**

当日、話題提供資料の縮小版を配布します。準備ができ次第、以下の URL に掲載しますので資料をご覧の上、参加ください。

<http://www.juce.jp/senmon/active/>

11. **その他**

話題提供と意見交換の様子(意見交換は背面からの遠景)を個人情報に配慮して収録し、映像は編集後に加盟校に限定してネット上で動画配信します。また、意見交換による課題の整理は文章で本協会 Web サイトに掲載する予定にしております。

12. **参加申込について**

別紙の申込書に必要事項とアンケートを記入の上、FAX 又はメールで 12 月 13 日(水)までにお申し込み下さい。

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
社会福祉学・社会学・教育学・統計学・体育学グループ  
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会  
参加申込書

※ 必要事項を記入の上、FAX (03-3261-5473) またはメール (bbswelfare@juce.jp) にてお申し込みください。

- ・ご記入いただいた個人情報、本協会の事務連絡及び委員会活動の案内に限定して利用させていただきます。
- ・データベース管理作業の外部委託の際には目的外の利用や情報の流出がないよう、十分留意いたします。

『参加者記入欄』

※ できるだけ詳しくご記入下さい。後日、収録ビデオ配信のご案内や今後の活動のご案内をさせていただきます。

ふりがな ( )

氏名: \_\_\_\_\_

大学名: \_\_\_\_\_

所属・役職: \_\_\_\_\_

E-Mail: \_\_\_\_\_

**アンケート** 意見交流の運営に役立てるため、下記についてできるだけ記入ください

(1) 先生が ICT を活用して体験されたアクティブ・ラーニングを振り返っていただき、ICT 活用の内容、学生の反応、授業運営の工夫・改善と今後の課題などを記入して下さい。

(2) ICT を活用した学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)の内、顕著に効果があったと思われる能力要素の□にレ印を付けてください。(複数可)

- 知識     技能     思考力     判断力     表現力  
 主体性     多様性     協働性

(3) 授業の可視化、学修成果の可視化を通じて授業科目の相互理解を深めるために、ICT を活用した e シラバス、e ポートフォリオを大学で整備し、活用されていますか。

①と②の該当する□にレ印を付けてください。

e シラバス    ① 整備状況 (  整備している     整備していない )    ② 活用状況 (  活用している     活用していない )

e ポートフォリオ    ① 整備状況 (  整備している     整備していない )    ② 活用状況 (  活用している     活用していない )

(4) 授業科目の相互改善を促進するための仕組みとして、大学がサイトを設けて教員同士、職員、学生、有識者などを含めてオープンに議論を行うことの是非を該当する□にレ印を付けてください。必要に回答された場合は、オープンに議論を行う対象者の□にレ印を付けてください。不必要に回答された場合は、主な理由を紹介ください。

- 必要 (  教員同士、 職員、 学生、 有識者 ) 複数可  
 不必要 ( )